

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL.9 NO.2

(通巻 36号)

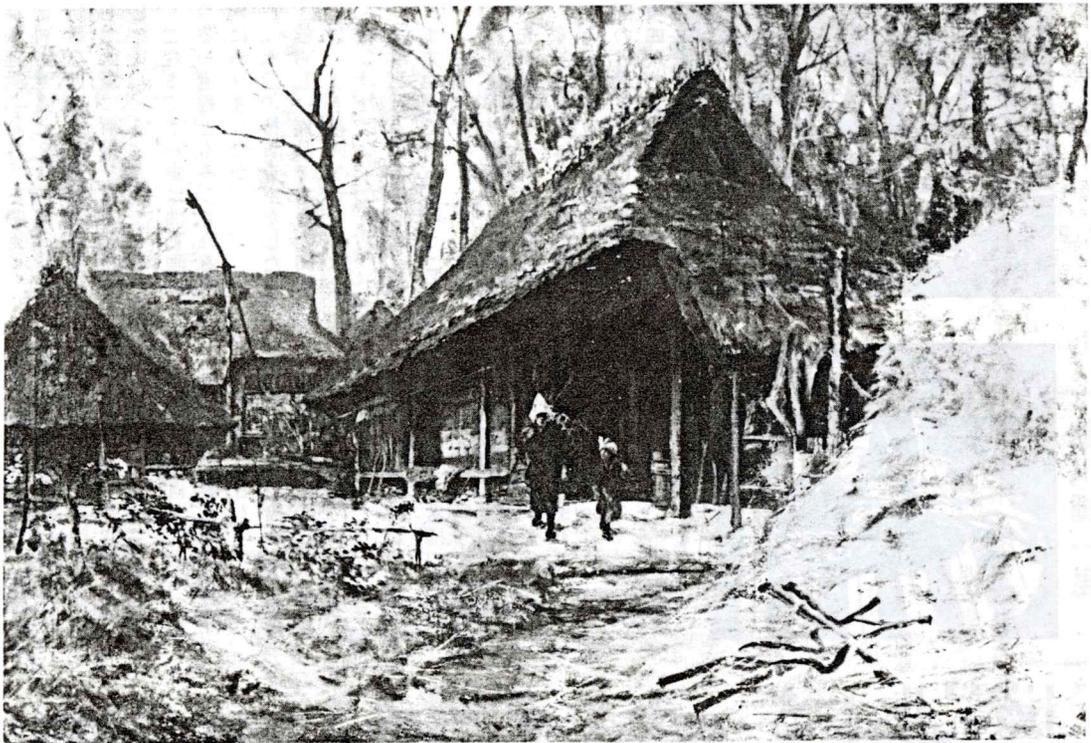
昭和57年7月15日発行

編集・発行人 高橋在久

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8 3 1 1(代表)



浅井 忠「藁屋根」

新しい水絵を求めて

中西利雄展

七月十九日(木)〜八月十九日(木)

無料

水彩画を描く。

ほとんどの人が、小・中学校で経験することです。

このように、水彩画は絵画の材料として私達に最も親しいばかりでなく、日本の近代絵画史の上でも重要な役割を果たしてきました。

これまでも、水彩画の体系的な収集に併せ、「水彩画の再発見展」の開催など、水彩画のもつ意義や歴史的な流れを紹介してきましたが、今回は水彩画の一層の近代化を推し進めた中西利雄に焦点をあててみました。

◀南仏風景

一九三〇



中西利雄は生涯水絵を愛し水絵の良さ、普及に努めた画家です。

◀水絵

中西利雄が自分の水彩画を称するとき用いた言葉です。そこには、従来の水彩画とは違った新しい水彩画を生み出すという新しい水彩画に対する批判が込められているといえましよう。

中学校時代、図画教師であった水彩画家真野紀太郎に指導をうけ、東京美術学校西洋画科に入学した後も水彩画で通っています。昭和九年、帝展で水彩画による初めての特別な帽子店

一九三五



選を受賞し、昭和十一年には芸術運動の純粹化を唱えて、新制作派協会を結成するなど斬新な近代主義運動の旗手として画壇に新風を吹き付けました。

これまで水彩画は油彩画に至る一過程ともみなされる傾向にありましたが、

『水絵の特質を生かした水彩らしい作品であると同時に、よき絵画としての水絵でなければならぬ。』

『油彩と云い水絵と云うもまず絵画であるということ(中略)このことは「専門の所謂水彩画家である前に先ず謙譲な一人の真個の画家でなければならぬ」という自覚の上に立つた水彩画の近代化を促し、油彩画に

◀四人の女

一九三九



劣らない絵画表現をめざし、鋭敏な都会的感覚で、流暢な描写と明快な色調を駆使した近代感覚あふれる新鮮な水彩画を数多く残しています。

また、

『絵画の面白さは素描のなかの形とか線とか調子だけで充分味えるもの』

『素描という絵画の上の最も素朴な姿を通して、最も本質的な絵画の美しさが我々を打つ』

とも述べているように、絵画の基礎としての素描の重要性をといいますが、今回展示してある素描からも水彩画に劣らない楽しみが十分に味わえることと思います。

◀静物

一九四三



デッサンの歌

中西利雄作詩

私は絵を描く
あなたも絵を描く
ネエ

どうせ描くならデッサンをアー

しっかり勉強しましょう

油絵も水彩も

しっかり描かなきゃ

駄目ですよ

そりゃほんとのことですよ

ネみなさん

絵の講習会の折に自から作詩作曲し、よく講習生と一語に歌ったということですよ。

◀素描

一九三六



◀ピアノのある部屋

一九四七



特別展 絵地図の魅力

本年度第一回の特別展「絵地図の魅力」は、古地図・絵図などに表現された地図としての世界と山水画、風景画としての絵画の世界とのかかわりを中心に、双方に連続して流れる美術的な面での共通性や影響を考える展覧会です。

人間の地理的な世界観の記録である絵地図は、未知への好奇心を促し、新しい知識を求める上で大きな役割を果たしてきた。第三者に見られ、使用されるために作られた地図の余白表現には、未知の土地の風俗や月の満ち欠けなどを装飾的に表現するなどの工夫が見られます。より美しく、魅力のある世界を追求し、単なる実用の範囲を越えて、絵画性、装飾性の豊かな独特の美の世界を形成してきました。絵地図には、「世界図・日本図屏風」や「洛中洛外図屏風」のような都市図屏風にみられる絢爛豪華な装飾美術の世界を切り開いたもの、国絵図や街道図などまわりの世界を客観的に、正確に記録しようとしたもの、その頂点として本県に関係の深い伊能忠敬の実

測図、江戸文化の華である浮世絵版画の発展による石川流宣らの絵地図や司馬江漢、亜欧堂田善らによる蘭学の研究による洋風版画等の印刷による大衆化されたものなどさまざまな表現形式があります。

地上のありのままの様子を鳥のように高い所から眺めて表現したものに鳥瞰図があります。鳥瞰（バース・アイ）は古くから大和絵（土佐派）の巻物などにみられるが、宗元画（狩野派）、南画・文人画、琳派、丸山・四条派はもとより浮世絵に至るまで幅広く表現されています。鳥瞰図は、真上から見たものではなく、やや傾斜をもった視点から描かれているので、純然たる地図とは言えず、やはり一種の絵の世界には違いないが、地図と絵画の世界を結ぶ共通点があります。

この展覧会では、地図的表現と絵画的手法の連続性を山水画・風景画・写生画の表現にも求めようと試みています。版画技法の面からは、先に述べた浮世絵版画系、銅版画系と近代日本美術のかかわり

も考えてみたいと思っております。また、西洋の遠近法が、わが国絵画に影響を及ぼす最初の頃に、絵地図の中に先ず取り入れられていたということなども考えてみたいものです。

この他にも、地図をデザインした美術工芸品や房総関係の絵地図、伊能忠敬と横山大観の関係を示すコーナーを設けるなど絵地図と美術の結びつきを、主として絵画性・装飾性に焦点をあて、多様な発展をした絵地図の表現の魅力を探ろうとするものです。

会期・入場料

●会期

昭和57年9月11日(土)～10月13日(水)

開館時間 午前9時～午後4時30分 月曜日休館

(ただし、10月11日は開館し翌12日を休館)

●入場料

一般五〇〇円(三〇〇円)

大・高校生三〇〇円(二〇〇円)

中・小学生二〇〇円(七〇円)

(一)内は二十名以上の団体料金

なお、学校団体については特別の割引料金があります。

鳩川誠一展 を終えて

本館では、開館以来、房総に生まれ、あるいは、定住して近代日本の美術界において活躍し、美術振興のために貢献してきた美術家たちの再発見と顕彰を行うため、房総の美術家シリーズを企画しているが、その第12回として「鳩川誠一展―画業70年の回顧―」を5月27日から6月17日まで開催し、県内はもとより県外からも多くの観覧者を迎え、好評のうちに終了した。

会場正面にかけられた氏の代表作品「海女人命救助」や「パリの女」など人物や、花など静物を描いた作品約百点が、氏のこれまでの業績を回顧するために展示されたが、氏は、「自然と人間を深く正しく見つめ、自然の心を理解し躍動する生命感を描き出していきたい」とエネルギーッシュに語っている。本展を観覧された多くの方々は、力強く、みずみずしい若さにあふれた画面に圧倒されたことと思う。

また、本展の開催に伴い、6月5日、第二回「美術を語る会」が、鳩川誠一氏と本館々長との対談形式で行

われた。病弱であったことから絵を描くことを決心したが、当時は絵の具、キャンバス等を手に入れるのは容易なことではなく、苦心の連続だったという。そして白日会に入会し、中沢弘光、里見勝蔵らと交友や当時のエピソードなどを話された。また、戦後会員となった独立美術協会の性格、主張等について語られ、最後に、これから自分の進む道は墨絵であり、墨絵によって自分の芸術を高めたいと結ばれた。

語る会終了後、開催中の「鳩川誠一展」を氏の解説により見学した。



更に、氏は今秋にも東京で個展を開催するという。氏の今後の活躍に期待したい。

新収蔵作品紹介 (VII)

浅井 忠

●購入

浅井忠作「欧州市場風俗」(水彩画、二四、三×三三、〇cm)
浅井忠作「皇太子馬上像」(鉛筆、四八、二×三三、二cm)



欧州市場風俗



皇太子馬上像

●寄贈
●兼巻洋子氏より
●浅井忠書簡・

その一連のものと思われ、制作は絹本に描かれているところから帰国後まもなくなされたものであろう。

浅井は、数多く風俗をテーマにした作品を残している。その代表的なものは、明治四〇年刊行の『当世風俗五十番歌合』(上・下二冊)である。この「欧州市場風俗」は、「木魚遺響」に掲載されているもので、絹本に水彩で着色し浅井としてはめずらしく人物を前景に配置した構図である。人物表現など少し堅さが認められるが、それが反面挿絵的な雰囲気を生みだしている。石井柏亭は、その著「浅井忠」に、「浅井は池邊と謀って巴里風俗を画と文とによって日本に送ることを思ひ立ち、日曜ごとに二人伴立って市中を歩いては面白いと思ふものを挿画にし、池邊がこれに短文を添へた」と記している。この

葉書15通

●浅井忠関係葉書24通

●浅井忠絵葉書2種

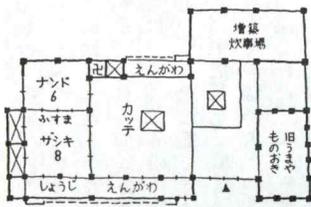
●空封筒(書簡なし)7通

本館では、浅井忠の研究資料の収集に力をそそいでいる。その意味で、今回寄贈を受けたものも貴重な資料である。ここでは、浅井の書簡、葉書について簡単にその内容を紹介したい。

- ①明治33年3月14日付浅井達三宛書簡
14日に付、10時に上陸。シンガポール市中の様子を記す
- ②明治35年10月31日付浅井安子宛書簡
パリ万国博覧会終了間際の様子、食事の様子など。
- ③明治36年2月11日付小林万古宛書簡
黒田清輝についての問い合わせの返事。
- ④明治39年6月30日付浅井達三宛書簡
母及び京都の一家についての様子。
- ⑤明治40年1月2日付浅井安子宛書簡
須磨旅行の際のもの。須磨での生活について。
- ⑥明治40年6月3日付浅井達三宛書簡
母及び達三の子経一(忠が預かり)の様子。
- ⑦明治40年7月31日付浅井達三宛書簡
飛騨旅行から帰宅後、旅行についての報告。
- ⑧明治40年8月27日付浅井安子宛書簡
東京より出した尺牘。
- ⑨不詳年7月23日付中沢岩太宛書簡
待ち合わせ時間の確認。
- ⑩不詳年1月7日付浅井家皆々宛書簡
妙・経一のことなど。
- ⑪不詳年5月7日付岡本橘仙宛書簡
水彩画帖画稿の送り状。
- ⑫不詳年7月27日付福井松雄鶴巻鶴一宛書簡
博物館見学への誘い。
- ⑬明治33年12月(?)浅井の母宛書簡
欧州からの書簡。欧州での生活の様子。特に写真にこっていることなど。
- ⑭明治38年7月20日付浅井安子宛絵葉書
飛騨旅行の際のもの。中津川着。
- ⑮明治39年12月29日付浅井安子宛葉書
須磨旅行の際のもの。

「藁屋根」の原風景

「藁屋根」は、浅井忠の初期の油彩画で、重要文化財に指定されている。「春畝」、「収穫」と比肩できるといわれている。この作品の原風景を追跡したところ、浅井は明治17年と18年に日光方面を訪ねている。ところで民家の形態分布の調査から、尾島利雄著「日本の民俗・栃木」に、「栃木県北部では、東北地方に関連する広間型の民家が多く見られ、門構えや塀などはほとんど見られない」とあり、「藁屋根」に描かれた民家の説明を読むようであった。民家の右手の馬屋、その先の縁側、しかも門構えも塀もない画面は、まぎれもない栃木県北部での、風景との対話を無言のうちに語っているとみた。(在)



「日本の民俗・栃木」より

三笠宮殿下ご来館

去る5月23日、習志野三笠会総会に御出席のため来葉された三笠宮崇仁殿下が、本館を訪れた。

殿下は、高橋在久館長の案内で、常設収蔵作品展等の展示作品を興味深げにご覧になられたが、なかでもお兄様の今上天皇をモデルにして描いた浅井忠の



殿下のご見学を講座

鉛筆デッサン「皇太子馬上像」に目を止められ、熱心にご覧になっていった。

また、当日県民アトリエで行っていた洋画入門講座をご見学になり、受講生にお気軽に話しかけられるなど、なかなか光景がみられた。

第一回研究員会議開く

去る6月11日(金)、本年度第一回研究員会議が本館会議室で開かれ、本年度の調査・研

究について話し合われた。各研究員から、本年度の研究テーマ、研究内容、研究方法等について話されたが、特に美術館所蔵の複製画についてはぜひ活用したいとの希望が多く出され、その活用方法、事前・事後の意識調査、複製画の運搬方法等について熱心な協議がなされた。

最後に、開催中の企画展「鳩川誠一展」を鳩川氏の解説により見学して散会した。

美術館協議会委員決まる

館の運営等に関し、館長の諮問に応じる協議会の委員には、学校教育、社会教育の関係者並びに学識経験者の10名により構成されているが、任期満了にともない、新しく委員が決定した。本年度第1回美術館協議会が7月2日、本館研修室で行われ、昭和57年度の子算、展覧会事業並びに普及事業等について協議が交わされた。

なお、新たに決まった委員は次の方々である。

特別展入館料を改定

昭和57年4月1日から昭和58年3月31日までの、本館で開催される特別展入館料が左記のように改定されました。

なお、団体入館料のうち学校団体とは、美術館を学校教育の一環として、あらかじめ、学校長の申し込みを受け、教員の引卒のもとに展覧会を観覧しようとする県内の高等学校及び中学校並びに小学校の生徒、児童のことで、本館では、学校団体の利

用促進についても力を入れております。学校教育とのかわりから、美術館の効果的な利用の仕方等について、研究員の先生方からもご意見をうかがい協議をしています。

より多くの児童、生徒のみなさんに美術作品に親しんでいただき、美術館がもっと身近なものになるよう、積極的な美術館利用をお願いいたします。

●個人

- 一般 五〇〇円
- 一 般 高 校 生 ・ 大 学 生 三 〇 〇 円
- 小 ・ 中 学 校 児 童 生 徒 二 〇 〇 円

●団体(20名以上)

- 一般 三〇〇円
- 高 校 生 ・ 大 学 生 二 〇 〇 円
- 小 ・ 中 学 校 児 童 生 徒 七 〇 円
- 県 内 学 校 団 体 ・ 高 校 生 七 〇 円
- 県 内 学 校 団 体 ・ 小 ・ 中 学 校 児 童 生 徒 五 〇 円

特別展入館料を免除

本年度4月1日から当分の間、特別展観覧に際し、次の該当者は入館料が免除されますのでご利用ください。

- 1、身体障害者手帳配布対象者(ただし、第一種身体障害者については、介護者も免除)
 - 2、療育手帳配布対象者(介護者も免除)
 - 3、千葉県発行「長者のしるべ」配布対象者
- ただし、1、2、3の場合、入館の際に当該手帳を呈示していただきます。
- なお、当日手帳を持参していない場合でも、明らかに該当すると思われる場合には、同様の取り扱いをします。
- * * * *

- 浅見喜舟(県美術会会長)
 - 足立 堯(九十九里町九十九里中学校長)
 - 石母田権兵衛(県立東金高等学校長)
 - 遠藤健郎(画家)
 - 郡司幹雄(県文化財保護審議会副会長)
 - 鈴木民三(県立美術館友の会会長)
 - 高橋恒三(和洋女子大学常務理事)
 - 田中 稔(美術評論家)
 - 野口貞子(千葉市婦人グループ連絡会役員)
 - 牧田 茂(白梅学園短期大学教授)
- (五十音順・敬称略)

◎第三回美術を語る会

期日 8月3日(土)
時間 14時～15時半
主題 「私の中西利雄観」
話題提供者 陶山 侃氏

ください。
◎第六回美術館夏季大学
本館では「みる・かたる・つくる」活動の一環として、本年も「美術館夏季大学」を開設します。

◎第二期デッサン入門講座

期日 8月19・20日
講師 羽生智樹氏

◎第一期てん刻入門講座

期日 8月26・27日
講師 霊園鴻甫氏

◎第二期洋画研修講座

期日 8月28・29日
9月18・19日
10月2・3日
講師 高橋規矩治郎氏

◎版画入門講座

期日 8月7・8・14・15・20・21・22日
講師 深沢幸雄氏

◎彫塑入門講座

期日 9月28・29日
10月5・6日
12・13・14日
講師 青木三四郎氏

※各種講座の応募方法

往復はがきに、受講希望講座名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記のうえ、美術館普及班あてお申し込み

ごあんない

今回は、水彩画を含めた洋画の歴史と見方・楽しみ方等に焦点をあてて開講しますので、ふるってご参加ください。
一、期日 昭和57年7月30日(金)・7月31日(土)
二、時間 午前10時～午後3時半

三、場所 「県民アトリエ」講堂

四、受講料 無料

五、内容(予定)

- 第一日
 - ・水彩画の歴史と見方 講師 遠藤健郎(洋画家)
 - ・具象絵画の歴史と見方 講師 田中稔(美術評論家)
- 第二日
 - ・絵画の楽しみ方 講師 飯田祐三(画廊社長)
 - ・抽象絵画の歴史と見方

講師 植村鷹千代(美術評論家)

六、応募方法 往復はがきで、美術館普及班あてお申し込みください。

団体展(7月～9月)

- 千葉美術シンポジウム&青枢展 7月6日～18日
- 第13回千葉市水墨画同好会連合会展 7月20日～8月1日
- 第2回千葉サンケイ現代洋画展 8月3日～15日
- 第11回写真千葉県展 8月17日～29日
- 第10回千葉市教職員美術展覧会 8月17日～29日
- 第12回いってふ会彫刻展 8月17日～29日
- 第7回子供と教師の作品展 8月24日～29日
- 静雅書道会小中学部千葉地区展 8月31日～9月5日
- 龍峽書道会千葉県人展 8月31日～9月5日

来館者

4月

- 13 目黒区立美術館開設準備室3名
- 22 文部省20名
- 23 愛知県文化会館企画課 長桜木廉氏
- 28 埼玉県立美術館開設準備室3名

5月

- 1 衆議院議員白井日出男氏
- 13 宮崎県教育委員会 埼玉県立美術館開設準備室
- 18 習志野三笠会 三笠宮崇仁殿下他80名
- 23 神奈川県宮繕課 沼田県知事鳩川誠一展を観覧
- 26 下関市建築課長 今井教育長鳩川誠一展を観覧
- 27 仙台市博物館拡大委員 会佐藤明氏

6月

- 12 仙台市博物館拡大委員 会佐藤明氏
- 28 今井教育長鳩川誠一展を観覧
- 31 下関市建築課長 今井教育長鳩川誠一展を観覧

日誌抄

4月

- 1 辞令交付式 離着任式

5月

- 23 県立美術館博物館、館長会議
- 28 県立美術館博物館、庶務課長学芸課長会議 美術館友の会理事会、評議員会
- 15 第1回美術を語る会
- 22 第1期洋画入門講座開講
- 25 千葉南ロータリークラブより白木蓮奇贈
- 27 千葉県博物館協会役員会
- 29 鳩川誠一展始まる(6月17日まで)
- 6月 第1期洋画研修講座開講
- 1 第1期陶芸入門講座開講
- 5 第2回美術を語る会
- 1 第1期日本画入門講座開講
- 7 日本博物館協会職員研修会(庶務部門)
- 11 57年度第1回研究員会議
- 13 美術館友の会美術鑑賞バスの旅
- 16 ボランティア研修会、中西富江氏宅訪問
- 17 千葉県博物館協会役員会総会
- 2 57年度第1回協議会